

犬のマッチングのアドバイス・・・犬種傾向を知っておきましょう

トイプードル、チワワなど



元々、侵入者を吠えて知らせる役目を持っているなど、比較的よく吠える傾向にあります。集合住宅などでは、なるべく吠えないよう、しつけをして飼いましょう。

シェルティ、コーギーなど



動くものに過剰に反応し、興奮しやすい傾向があります。スポーツやトレーニングなどを一緒に楽しんだり、犬の飼育経験が豊富な人にお勧めです。

ラブラドル、ゴールデンなど



「ものをくわえたい」という欲求が強く、甘噛みやいたずらも相当なものになりがちです。散歩やボール遊びなど、たくさん遊んで発散させてやりましょう。

ダックスフント、ビーグルなど



獲物を追いかける習性から、大きさの割にはタフな場合が多いので、エネルギーの発散が必要です。ものをかじる、におい嗅ぎが過剰になることもあります。

日本犬（柴犬、秋田犬など）



自立心が強く、一人の飼い主になつき、体を触られたり、他犬と協調するのが苦手な傾向にあります。そうした性格を理解し、魅力に感じる人向きです。

いわゆる雑種



見た目も性格も大きさも様々です。外見が似ている犬種で傾向を判断するのではなく、性格や行動など個々の犬の特徴をしっかりと見ることが大切です。

※あくまで犬種の傾向であり、実際にはそれぞれの犬の性格を見ることが重要です。

■小さい子供のいる家庭には……

子供に対して温厚にふるまえる犬がいいでしょう。おとなしい子供がいる場合は落ち着いた犬、やんちゃな子供の場合には元気で活発な犬がお勧めです。譲渡会などで実際に子供に会わせて相性をみましょう。基本的に犬の世話は親が行い、子供も手伝うというスタイルが望ましいでしょう。



■共働きの夫婦、留守の時間が長めの家庭には……

落ち着きのあるタイプ、独立心の強いタイプ、一匹でいることが苦にならない犬がお勧めです。ケージの中や繋がれた場所で落ち着いていられる犬なら留守番が長くても負担は少ないでしょう。子犬は手間と時間がかかるので、ある程度性格の分かった成犬の方がいいでしょう。



■家族全員が大人で、比較的静かに暮らしたい家庭には……

落ち着いて行動できる中高齢の犬、動きが緩慢な犬、大きさでは中型犬以上がいいでしょう。また、高齢者だけの家庭には、穏やかな性格の小型の成犬がお勧めです。ただし、病気や入院などで世話ができなくなった時に備えて、後見人的存在(家族や知り合い)をあらかじめ決めておく必要があります。



マッチングの失敗例！ 適正なマッチングがされない、いろいろな問題が起きてしまいます。

ケース
1

マンションに暮らす家族が吠えやすい小型犬をもらったら……



吠え声の苦情が来てしまい、犬を返したいと相談することになってしまった

ケース
2

小さい子供のいる家庭がシャイな猫をもらったら……



ていねいに扱われず、猫が子供の存在をストレスに感じて元気がなくなった